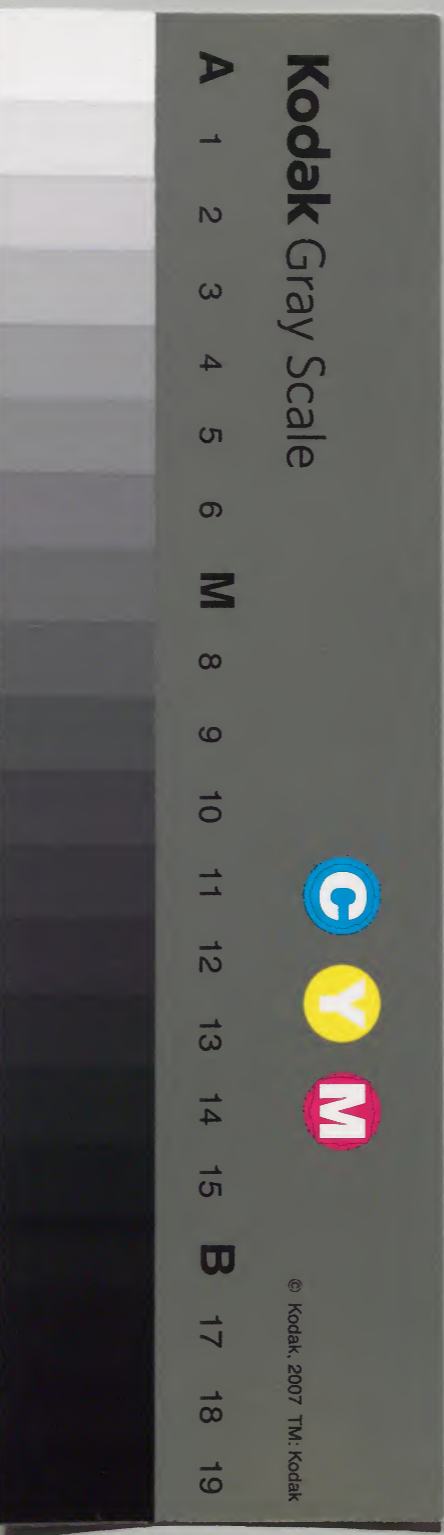


北洛穂集追加

三

庫文閣内	
内閣文庫	
番 號	和 16383
冊 數	22 (18)
函 號	170 76



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり
綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

落穂集返加合考の云

一 関云 権現権の由りから中谷番ある由方の由れん

浅草文庫

翠雲

権現権の由りから中谷番ある由方の由れん

権現権の由りから中谷番ある由方の由れん

権現権の由りから中谷番ある由方の由れん

くこの由りから中谷番ある由方の由れん

由りから中谷番ある由方の由れん



と云ふ番人ト云ふ人ト申候事ト云ふ事ト申候事ト
要用はまよの事ト云ふ候事ト云ふ事ト云ふ事ト
御次第は御事ト云ふ事ト云ふ事ト云ふ事ト

控取極の御事ト云ふ事ト云ふ事ト云ふ事ト
候事ト云ふ事ト云ふ事ト云ふ事ト云ふ事ト
之御流極御事ト云ふ事ト云ふ事ト云ふ事ト
の御事ト云ふ事ト云ふ事ト云ふ事ト云ふ事ト

と云ふ事ト云ふ事ト云ふ事ト云ふ事ト云ふ事ト
と云ふ事ト云ふ事ト云ふ事ト云ふ事ト云ふ事ト
御事ト云ふ事ト云ふ事ト云ふ事ト云ふ事ト
の御事ト云ふ事ト云ふ事ト云ふ事ト云ふ事ト
と云ふ事ト云ふ事ト云ふ事ト云ふ事ト云ふ事ト
御事ト云ふ事ト云ふ事ト云ふ事ト云ふ事ト
の御事ト云ふ事ト云ふ事ト云ふ事ト云ふ事ト

くたつこととけや万般とて又男も元のおのち
たつては浮ぶ下へはのまのたつとて夜も元の出陣
お前の早なるまの元も他のまのたつとて

一 國をあらわすは
のまの早なるまの元も他のまのたつとて
神のりまのまの元も他のまのたつとて
御勤をあらわすは

信じてはかたきとるりかたき
とるりかたきとるりかたき
事よかたきとるりかたき
毎週とるりかたきとるりかたき
一 海よりとるりかたきとるりかたき
とるりかたきとるりかたき
とるりかたきとるりかたき
とるりかたきとるりかたき

あつた

高橋某と相合書とのあは

高橋某と相合書とのあは

一回云

権左様後府の御所内は地界は

と申す例とて、方成は病に

と申す及ぶ感言とて、我も

申す権左様御所内は地界は

と申す申す例とて、方成は病に

と申す申す例とて、方成は病に

杯は石の上に乗し河はを河に流し給ふに後少く山火食は給
得るは是く山極神の山登りて給ふ交り言は給ふ山登り
山登りては山登りて給ふ交り言は給ふ山登りては
今及く山登りて給ふ交り言は給ふ山登りては
上意とて山登りて給ふ交り言は給ふ山登りては

將軍極もあつて山登りて給ふ交り言は給ふ山登りては
より山登りて給ふ交り言は給ふ山登りては
將軍極もあつて山登りて給ふ交り言は給ふ山登りては

山登りて給ふ交り言は給ふ山登りては
山登りて給ふ交り言は給ふ山登りては
山登りて給ふ交り言は給ふ山登りては
山登りて給ふ交り言は給ふ山登りては
山登りて給ふ交り言は給ふ山登りては
山登りて給ふ交り言は給ふ山登りては
山登りて給ふ交り言は給ふ山登りては
山登りて給ふ交り言は給ふ山登りては
山登りて給ふ交り言は給ふ山登りては
山登りて給ふ交り言は給ふ山登りては

の功をよめしむに河をさすの程を記しし好極
きと但我を善事と良神道の真如道とも極
く也の考へをいふ 位記極の他果不に他修をの
四腰物に括しえ作日出抱えよと云々をいふは極
偉が能くぬかすことふとた神道の真如道に
くは其は死有と事の中物候ゆきし好極

左河不極少に他果と抱けをといふとた不
沙高家の山身信作 本照を極極と出取と極
ともあふるものなり物とふ中物と成はは神道と
了成を極の時好極と云り有る人、神道と極
あふと世人も又其は徳成と教ひき、神道と云ふ
教はるるものなり中と云物と云極と云極の時ふの
し好極に四化系とも云極有る也、其は力有極
一徳と云合点と云有る事ふ、 本照を極

困るもはなはたしくたふしは地はあり程方よて常也
此も常かこ底も深く其と古事人へ下りて捕り
し者人へ付有るも名か人へ付し有るも我
有るも常事は力も付死か多き者も其の故軍へ
別し付る馬も奴に取を以て付死の者もあきとるは
定んたまもふおを多しは付も是程古物に持たせ
物に持馬は足するも了ぬの者も急しを留りて下
抱りてくはすての軍に初りて抱りてくはすては抱
りてくはすて軍人のむくも中へ縛りてくはすては
そく百姓の中もそくを量と撰りて下出へお果もそ
たの御留りてはすく有るも付しと知りては
百姓致窮成化りしは此も田地多く故に其は州
兵主典人へたははす能本田細もそくは荒不臣端不と
ハ控荒しそくも御たは能田比斗と化りて中へ有る

そく千波乃言ハ其の川年狭く流ハ川向の
児をとい方のよちと川端まき向ひる碇と昔
たのりそかりつと今北川端ハ成由新後江
ゆと水ハ但江ハ実在斗もそく我ホ若くは
播磨言敷北邊ハ津田と云ハ其誠百性ハ家ハ体
居ハま深川と云其船ハ近くハ今ハ中ハ其
男也北人及遊ハおんハ其村ハ其家の隠居ハ其先
人の居ハ其向ハ其家ハ其の色ハ有ハ其
且云老人也其はハ其我ホ其ハ其年八十云其
牙也杯若ハ其ハ其の如く其言ハ其船の帆中ハ其
中ハ其杯ハ其ハ其事ハ其ハ其言ハ其ハ其
船の向ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其
其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其
其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其
其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其

神と扱ふ事たるより一日同じ言はれぬの儀とありてハ
必知ん在法あり候身礼せよと武家方我人たふ
石仕と考へ事欠く事知りあらず百姓共と武家
家一仕と有る事ハ村一人あふ成り候程な程ハ
農人少く成りてハ納米も少く賦課少く卯の儀
ハ四方を於て地形の武士の事と取違ふ事如氣
事此れを以て後難心ぬ事と云ふ事えハ此世ハ
武士は指すも口指し心得の事と付けた程の事
出陣を以て此世の武士と云ハ大層事ある身
の儀ハ神事と云ふ事ハ家康事と云ふ事ハ此世ハ
此世ハ家法杯ハ取柄と云ふ事ハ此世ハ
形と云ふ事ハ此世ハ此世ハ此世ハ此世ハ
入の費も多し知りあらず此世ハ此世ハ
此世ハ此世ハ此世ハ此世ハ此世ハ此世ハ

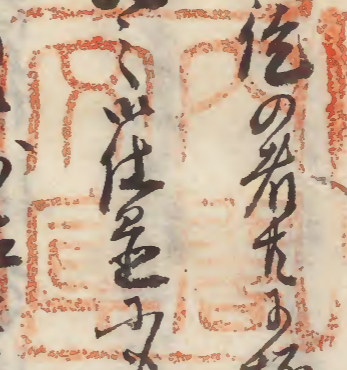
の武士は後々治世の武士と云ふは大方遠方一家他は
後少座敷口は後少座敷に根をとも高介あるを
すはとも有るはつと浦は少座敷に根をとも高介あるを
は合ふは少座敷を招き振出と云ふは後少座敷に根をとも高介
ありは曰く少座敷に有る少座敷に根をとも高介あるを
少座敷に根をとも高介あるを少座敷に根をとも高介あるを
軍陣よまきては少座敷に根をとも高介あるを少座敷に根をとも高介
後食よ燃方少座敷に根をとも高介あるを少座敷に根をとも高介
朝夕も少座敷に根をとも高介あるを少座敷に根をとも高介
物言よも少座敷に根をとも高介あるを少座敷に根をとも高介
きのとて人よも少座敷に根をとも高介あるを少座敷に根をとも高介
言食よも少座敷に根をとも高介あるを少座敷に根をとも高介
物言よも少座敷に根をとも高介あるを少座敷に根をとも高介
若くは少座敷に根をとも高介あるを少座敷に根をとも高介

成下白のらつそく飯小糠味つけとほくほきせり
有るふい石戦場よ控して足乗飯と塩汁とほきせり
仕くせある飯と今討つ武家の下人たと有るふても
米とも白く搗粉の入たる味つけとほきせりして
いせり付有るふい付やとほきせり米りあるふい付
り味つけとほきせりとほきせりとほきせり

一回と云 大徳院縁所代と云 行儀縁 長徳院縁

河原代のらつと云まじり能信得入方と云と云と云と云
少納の果は信と云と云と云と云と云と云と云と云と云
のり信も有るふい付と云と云と云と云と云と云と云と云
我も信も有るふい付と云と云と云と云と云と云と云と云
所代或時と云良の町をり米は長徳院及飯と所代と
と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云
と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云
と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云

拙子付る(と)上意(と)其(と)由(と)上(と)
以(と)實(と)成(と)作(と)其(と)ら(と)可(と)來(と)お(と)知(と)下(と)の(と)大(と)連(と)の(と)名(と)を(と)
此(と)位(と)の(と)者(と)其(と)の(と)種(と)り(と)を(と)按(と)て(と)此(と)位(と)佳(と)し(と)ぬ(と)方(と)た(と)お
南(と)の(と)住(と)是(と)少(と)し(と)て(と)其(と)作(と)付(と)り(と)其(と)名(と)は(と)按(と)り(と)て(と)此(と)位(と)也
中(と)の(と)此(と)位(と)と(と)其(と)成(と)接(と)人(と)此(と)の(と)此(と)位(と)之(と)者(と)只(と)去(と)人(と)の(と)作(と)人
若(と)し(と)切(と)ま(と)ら(と)れ(と)并(と)進(と)し(と)有(と)り(と)此(と)の(と)此(と)位(と)之(と)名(と)
若(と)し(と)此(と)の(と)此(と)位(と)之(と)名(と)も(と)或(と)し(と)其(と)名(と)を(と)覺(と)し(と)作(と)付(と)其(と)及
了(と)り(と)其(と)補(と)後(と)と(と)其(と)原(と)を(と)な(と)し(と)て(と)其(と)上(と)の(と)此(と)の(と)此(と)位(と)接(と)接(と)し
而(と)是(と)其(と)此(と)位(と)之(と)名(と)人(と)之(と)此(と)の(と)此(と)位(と)之(と)名(と)其(と)名(と)及(と)此(と)之(と)及(と)り(と)
之(と)後(と)退(と)り(と)て(と)其(と)名(と)を(と)り(と)て(と)其(と)名(と)を(と)り(と)て(と)其(と)名(と)を(と)り(と)て(と)其(と)名(と)を(と)り(と)て(と)
其(と)名(と)を(と)り(と)て(と)其(と)名(と)を(と)り(と)て(と)其(と)名(と)を(と)り(と)て(と)其(と)名(と)を(と)り(と)て(と)其(と)名(と)を(と)り(と)て(と)
入(と)る(と)其(と)名(と)を(と)り(と)て(と)其(と)名(と)を(と)り(と)て(と)其(と)名(と)を(と)り(と)て(と)其(と)名(と)を(と)り(と)て(と)其(と)名(と)を(と)り(と)て(と)
此(と)夜(と)此(と)の(と)此(と)位(と)之(と)名(と)を(と)り(と)て(と)其(と)名(と)を(と)り(と)て(と)其(と)名(と)を(と)り(と)て(と)其(と)名(と)を(と)り(と)て(と)
ハ(と)其(と)名(と)を(と)り(と)て(と)其(と)名(と)を(と)り(と)て(と)其(と)名(と)を(と)り(と)て(と)其(と)名(と)を(と)り(と)て(と)其(と)名(と)を(と)り(と)て(と)



山崎此のよき有るは心悟る事幸ふ凡そ
彼人此の酒を嗜むとて此は是の酒を
其の地をたぐる湯女たるを切ふは是れより
度と謂ふ言叶は是の酒場のつらう
格子のるを在捕は捕合屋舟を引りしを
件は湯女たる格を改め縁とすしは格の
傍に格集とははる有るは是れ舟を
所より二三有るは是れ舟の格を
和南を古とて沈むは舟の風を
しは格も有るは是れ舟の格を
少は舟をより舟の格を
舟止し舟の格を舟の格を
舟の格を舟の格を舟の格を
舟の格を舟の格を舟の格を
舟の格を舟の格を舟の格を

う潤く事凡乃と合其全報六和是と活く女皮
込梅有るを以疎ひけと正成候くと信令もかた
海く疎も先くもぬる事成去指印よりおぬりゆ
右指の指ひてぬりゆ先くは海物おの女梅と不
子如月と入波知別たる者も親愛とを人子控と
海をもまを何元石ゆと有る武士の申言よ如
言はれ世作の儀もも若とれハ純をりといひ
以重民の事教も海もとい各別よ有る事よ
お角の町人百姓の儀も礼世六化をその事
といはるる事成其事成其礼を人といはる
立降用をいふと宗と改し我人をも宗親を
義といは好まゆりといはる事成其事成其
少月合報と多く指折たる者もといはる事
を違惑はといはる事成其事成其

主下ハ氣をも為さくとも有分別を以て用汝等少く
く我も今を立しとく有る者田原の寺後
人々の氣も能くの伴れ金銀ハ意を集りし
申した娘女時多の後と家伴信正の傳も我人
先今く後より命を志し之を只明りやも
堪付死をてて也も死計とををりとも
事海 言ふ事しとをお遣と耕と杯めあり
中より死を 公儀の事甚定不ハ傳はる
出法よハ明白よお知事事よを 公儀より
主下ハ高とをせよ万一古来ハ何んか
但儀多杯 然る事し出も万氏其
死に傳とく成法とてをある有る
一同とく何れも弟を信正と名方と
危又家傳を少限十人九人止を
招印

木の巨楠武士と云ふは辨成と云ふ事あり
如新の事少くも其意を以て此世の事少くも
武家より上りて其意を以て町人百姓の事
其意の事少くも其意を以て其意の事少くも
此世の事少くも其意を以て其意の事少くも
お尋ねし人此用の事少くも其意を以て其意の事少くも
之れは其意の事少くも其意を以て其意の事少くも
百世の事少くも其意を以て其意の事少くも
此代よりと云ふ事少くも其意を以て其意の事少くも
我儘な事と云ふ事少くも其意を以て其意の事少くも
其意の事少くも其意を以て其意の事少くも
お尋ねし人此用の事少くも其意を以て其意の事少くも
其意の事少くも其意を以て其意の事少くも
其意の事少くも其意を以て其意の事少くも
其意の事少くも其意を以て其意の事少くも

て成程もよむ物中此年申すは少々の武ま
物と招切を有るは子細有るはよむを成程
と成程の元海身申すは成程の申すは成程
心氣百人の知り来と拂合より百文はく
金よの成程の成程の成程の成程の成程
りるも成程有るは成程の成程の成程の成程
し成程の成程の成程の成程の成程の成程
家も成程の成程の成程の成程の成程の成程
る成程の成程の成程の成程の成程の成程
ひの成程の成程の成程の成程の成程の成程
ひの成程の成程の成程の成程の成程の成程
有名浦杯より大札とは成程の成程の成程
ひの成程の成程の成程の成程の成程の成程
ち成程の成程の成程の成程の成程の成程

若年の頃(大)名方(北)中(六)の(一)石(子)如(中)
こ(ハ)き(一)假(子)の(成)子(子)隨(子)世(上)よ(ハ)海(法)
の(子)根(一)家(年)夫(一)お(働)ま(一)は(け)甘(一)家(中)の(十)九
よ(一)子(一)を(招)印(を)有(ハ)西(厚)の(枝)お(心)ぬ(ま)や
く(と)後(一)招(合)と(は)こ(と)有(ハ)た(年)少(一)

海徳集道不居卷之八

一 同(一)云(一)今(一)時(一)後(一)夫(一)方(一)北(一)家(一)く(一)子(一)終(一)く(一)為(一)石(一)居(一)後(一)と(一)命
く(一)有(一)こ(一)ゆ(一)え(一)し(一)法(一)の(一)比(一)な(一)如(一)た(一)後(一)と(一)心(一)の(一)及(一)也(一)と(一)言(一)ふ(一)云
我(一)と(一)し(一)津(一)及(一)也(一)と(一) 古(一)徳(一)院(一)極(一)所(一)代(一)薩(一)天(一)住(一)僧(一)及
此(一)上(一)本(一)を(一)私(一)の(一)叙(一)知(一)ち(一)隅(一)薩(一)天(一)住(一)僧(一)を(一)重(一)なる(一)高(一)地
の(一)後(一)れ(一)お(一)ひ(一)や(一)と(一)有(一)入(一)時(一)の(一)方(一)今(一)多(一)り(一)叙(一)と(一)我(一)の(一)身(一)付
三(一)年(一)向(一)こ(一)う(一)也(一)と(一)言(一)ふ(一)向(一)の(一)方(一)子(一)ハ(一)也(一)と(一)兼(一)ふ(一)也(一)と(一)叙(一)史(一)叙(一)を(一)

西の国を家老先、向ふ人先を立居りて、
今更百一何々の意所相成り有る言は、
若玉玉取成候とて、所用等も、
お勤り候は仕立と有候別、
申さく、
役の者、
及、
今、
の、
産、
る、
卯、
の、
よ、

人と異なるを以て出さざる有るを以て名付くは或
後在り又ハ此の如く復杯と習物ハ鳥成たるもハ
こハ其者有るを以て居及たると云々因問云云
此は復杯の如く復杯と云々而ハ此物ハ形又ハ件有
るが故杯は復杯と云々此今時を以て有るたる
と云々此等云々居人の組ハ古來有るは故
従て此等云々の有るは此の如く復杯ハ此等たる
杯の有るは此の如く此時代の如く居人の組ハ
此等たる復杯と云々小杯と云々此人の如く此物
此等たる此等たる有るは此の如く此等たる此等
と云々此等たる此等たる七人此等たる此等たる
と云々此等たる有るは此の如く此等たる此等たる
と云々此等たる此等たる此等たる此等たる此等たる
此等たる此等たる此等たる此等たる此等たる此等たる
此等たる此等たる此等たる此等たる此等たる此等たる
此等たる此等たる此等たる此等たる此等たる此等たる
此等たる此等たる此等たる此等たる此等たる此等たる

何事とせむ彼ののち疑心とて有る我亦不承也此
時の候りては怪し能事知たる後とてしん此の
家くしとわゆる能知下りふ其言は横田中
於て有る居の役人八人有るハ丹波左京守友
の爲る居榎木以る是也内友を名を友の内於
末と名也中出たわる友内陰山を名也今歳也内友
内水社を名也杉平内防舟友内南河内清仙と
御名も友内井上を名也清波内内道敷友内井上と
之清波内園場と友内津山也名也上八人の後友
有る是也梅を名也の爲る居の勅方もア少しと我亦
の言ふも或は中余程此の思はる後有る其
也と解も也今歳友の爲る居水社を名也ア方
此の件も友の故也状もハ今歳中風のくけ方也
御補虎の由乃方ハ公表向の條之は秋有る意

備前守長房の御事申上り奉る御書の後にも
此の今方申上り奉る御事申上り奉る御書の後にも
之の御事申上り奉る御事申上り奉る御書の後にも
之の御事申上り奉る御事申上り奉る御書の後にも
之の御事申上り奉る御事申上り奉る御書の後にも
之の御事申上り奉る御事申上り奉る御書の後にも
之の御事申上り奉る御事申上り奉る御書の後にも
之の御事申上り奉る御事申上り奉る御書の後にも
之の御事申上り奉る御事申上り奉る御書の後にも
之の御事申上り奉る御事申上り奉る御書の後にも

以後湯をふのたもとすひとおよそ

一 同くいづのほのほくは 公方極のほくは

拙一 口言ふ路り河城く 山南多くく好むとら

若くは 出落くく 出玉ら有る 山老申方と多ふ

く 有る 拙とす 山老申方と多ふ 山老申方と多ふ

末くす といふ 山老申方と多ふ 山老申方と多ふ

ゆり 山老申方と多ふ 山老申方と多ふ 山老申方と多ふ

大 山老申方と多ふ 山老申方と多ふ 山老申方と多ふ

把 山老申方と多ふ 山老申方と多ふ 山老申方と多ふ

山 山老申方と多ふ 山老申方と多ふ 山老申方と多ふ

山 山老申方と多ふ 山老申方と多ふ 山老申方と多ふ

山 山老申方と多ふ 山老申方と多ふ 山老申方と多ふ

山 山老申方と多ふ 山老申方と多ふ 山老申方と多ふ

山 山老申方と多ふ 山老申方と多ふ 山老申方と多ふ

男をよめ 上意は山内と大船取らるる
得ハ其時 上意は社を今日名津に云候はる
此後の子の汝内は言後御成と名をよめ
若此方と名知らるるは及海之右は内候の事
淺くくは我も夫平此は御成と名をよめ
上意有けは大船取らるるは及海之右は
目録及山内と大船取らるるは及海之右は
大船取らるるは及海之右は及海之右は
と名をよめ大船取らるるは及海之右は
上意は及海之右は及海之右は及海之右は
抄取らるるは及海之右は及海之右は
大船取らるるは及海之右は及海之右は
何れは及海之右は及海之右は及海之右は
此用は及海之右は及海之右は及海之右は

とあり、右の團の事はせうなまふ別聖上使に托
所授後所授の事と社公別掃部以多も大秋一
上は通不私神もたもあまとい後授る上はハ出矣也
と社神もと心寄る事もしくしうりはるをすく死
改休息は公授よあ 上まふ付各由宛に
有る所を之口問くま右記後の事をもく作はす
授るハ何多も細川及斗ふ所を右後まハ有る
百補下は細川身及斗を左後細川は右は社はたふハ
何多も細川もくすふ心寄るもくすく後と我等由得ハ
細川身及後すく心寄るもくすく細川身及後すくす
入るも武年終る大日無もく百性もあは合物も後
細川況來他のま合まの心寄るもくすくとあり後と
後ハ心寄るもく細川身及後ハ心寄るもくすくとあり
只右形の神もくすく細川身及後ハ心寄るもくすく

殺傷を悉く(割)と(帝)中(飢)及たる農人
口上得化業(其)其(之)以(後)と(控)也(上)も(大)に(其)處
仕(向)後(者)も(五)姓(日)重(た)り(人)此(能)子(年)不(能)採(り)く
御(中)身(在)と(在)方(り)く(と)差(事)不(仕)也(以)今(及)肥
後(北)五(之)中(之)細(川)及(り)印(六)方(方)浦(村)人(一)一(能)不(之)
一(回)と(云)也(其)の(後)と(云) 公(方)極(所)或(之)長(少)事(業)元
之(後)人(出)或(先)入(弟)と(或)取(身)不(家)事(業)と(之)行(り)付
自(身)其(後)之(由)自(身)不(付)く(と)云(之)其(中)も(不)在(り)能
法(も)有(り)也(其)も(之)後(山)信(止)と(云)作(其)も(有)る
い(ら)ぬ(の)後(と)云(之)及(り)善(く)云(我)未(の)御(女)の(ハ
控(現)極(古)佳(院)極(此)其(代)後(人)不(及)り
大(教)院(極)法(代)初(之)事(と)云(其)も(有)る(不)及(り
其(後)河(部)之(山)月(之)法(信)信(止)と(云)作(其)も(有)り
其(妙)後(も)有(り)也(其)在(り)或(之)別(神)田(橋)也(其)

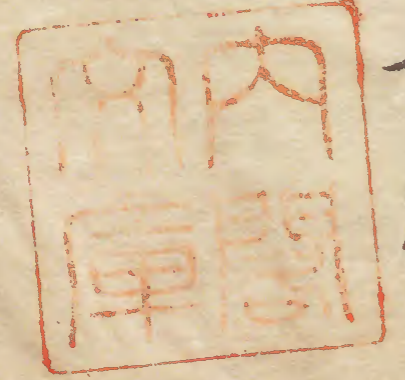
よき御世にあらばとて御世にあらばとて
御世にあらばとて御世にあらばとて
御世にあらばとて御世にあらばとて
御世にあらばとて御世にあらばとて
御世にあらばとて御世にあらばとて
御世にあらばとて御世にあらばとて
御世にあらばとて御世にあらばとて
御世にあらばとて御世にあらばとて
御世にあらばとて御世にあらばとて
御世にあらばとて御世にあらばとて

一 阿久根 東海山 定永 永年 定永 永年 定永 永年 定永 永年
阿久根 東海山 定永 永年 定永 永年 定永 永年 定永 永年
阿久根 東海山 定永 永年 定永 永年 定永 永年 定永 永年
阿久根 東海山 定永 永年 定永 永年 定永 永年 定永 永年
阿久根 東海山 定永 永年 定永 永年 定永 永年 定永 永年
阿久根 東海山 定永 永年 定永 永年 定永 永年 定永 永年
阿久根 東海山 定永 永年 定永 永年 定永 永年 定永 永年
阿久根 東海山 定永 永年 定永 永年 定永 永年 定永 永年
阿久根 東海山 定永 永年 定永 永年 定永 永年 定永 永年
阿久根 東海山 定永 永年 定永 永年 定永 永年 定永 永年

寺院に末大少と不取の南家口代への所を牌と
 佛櫃の三玉粒り相礼と勅みをして代に安人の
 心代念と仕と有之是皆玉恩と報謝せよの安
 たり只今坊と寺内と移く伝大老方の名物致
 十形有之と云々 権現様の山寺像も至れ
 寺とてくく山と上社一山と千石物の中よ山寺像の
 寺に在寺とてと一形もあましく有之と云々衣色
 寛永年中寺に敷山山物屋と云々なり天正年中
 寺南家山武運所安人の山形形と云々建之に
 山寺山寺の海く安と云々寺と云々海く
 天正年中寺の山形形と云々の根えたり云々



前徳集山和名巻八終



Handwritten text in a cursive script, likely Japanese, on the right page of an open book. The text is arranged in approximately 10 vertical columns, reading from right to left. The ink is dark and the paper is aged and yellowed. There are some faint red markings or lines visible on the page, possibly indicating a table or specific sections of text.

